自治体名：滋賀県

自動運転社会実装推進事業

最終報告書（公開版）

**【事業背景・目的】**

滋賀県においては、滋賀地域交通ビジョンを策定し、社会情勢の変化に対応した持続可能な交通ネットワークの維持・活性化を目指している。

この実現に向けては、既存の公共交通だけで必要な移動ニーズに応えていくことは困難であり、自動運転が適した地域で自動運転を実現することで、運転士不足を補完し、県民のニーズを踏まえた公共交通のサービス水準の向上、地域交通の確保・活性化を図る必要がある。

合わせて、まちのシンボルとなる「楽しく、グリーンな移動手段」として活用し、ひと中心のにぎわいのあるまちづくり、観光や移住等新たな需要の喚起につなげ、健康づくり、シビックプライドの向上、渋滞対策、CO₂ネットゼロ社会構築、滋賀地域交通ビジョンで示す「自家用車を使わない」という選択肢のある社会を目指す。

**【事業内容】**

滋賀県における自動運転の社会実装に向け、令和6年度は「自動運転の実装に適したフィールド調査」を実施した。調査内容は下記の通り。

調査内容1.　　**実証運行対象地候補の洗い出し**

調査内容2.　　**市町における課題等調査**

調査内容2-2. **県民Webアンケート調査**

調査内容3.　　**候補ルートのフィジビリティ調査**

調査内容4.　　**次年度以降の実証候補ルートの選定**

調査内容5.6.　**リスクアセスメントならびに各ルートでL4を実現する上での課題・対処策検討**

調査内容7**.　　3Dマップの作成**

**【検証項目・検証方法】**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 検証項目 | 検証方法 |
| 経営面 | 事業継続性が見込める地域の把握 | 候補となる地域の洗い出し、市町ヒアリング調査 |
| 自動運転バスへの期待、利用意向、負担意向の把握 | 県民Webアンケート調査 |
| 交通事業者へ自動運転事業への参入意向の確認 | 交通事業者へのヒアリング調査 |
| 技術面 | レベル4を実現可能なルートの把握 | 候補となる地域の洗い出し、市町ヒアリング調査、フィジビリティ調査 |
| レベル4を妨げる項目の洗い出しと対策 | フィジビリティ調査、リスクアセスメント |
| 社会受容性面 | 自動運転バスへの期待、利用者層、利用意向の把握 | 県民Webアンケート調査 |
| 関係機関との共有 | 滋賀県レベル4モビリティ・地域コミッティの実施 |

**【検証・分析結果】**　（※前章【検証項目・検証方法】と連動した報告内容を記載ください）

■経営面

【事業継続性が見込める地域の把握】

　滋賀県下19市町を対象に、情報収集を行い、都市構造、移動特性、ニーズ、技術面等から、本自動運転バスについて可能性のある地域を洗い出し、フィジビリティ調査結果に加え、まちづくりや他施策との連携、発信力、波及力等を踏まえ、特に高い効果が見込まれる地域を把握した。

　次年度以降に目指している実証運行の結果（利用者数やアンケート等による受容性把握）を踏まえながら、事業継続性の検証を行う必要性があると考えている。

【県民を対象としたWebアンケート調査】

自動運転バスの利用意向、期待、負担意向の把握を、県民を対象としたWebアンケート調査により実施した。

　利用意向、期待については、6割程度の回答者が「利用したい」「どちらかと言うと利用したい」、また、地域への自動運転の普及について、7割以上の回答者が「賛成」「どちらかというと賛成」と回答し、期待、利用意向ともに高いことが伺え、実証運行の際は一定以上の利用が見込まれると考えられる。

　また負担について、「今後の利用可能性などから、利用者以外も含め地域全体で負担する」が約40％、「利用者のみで負担する」が19%の回答であった。

【交通事業者へのヒアリング調査】

　交通事業者へのヒアリング調査により実施した。新たな取組への関心がうかがえ、今後の実証運行への参加についても可能性があると考えられる。

■技術面

【レベル4を実現可能なルートの把握】

レベル4を実現可能なルートの把握について、机上調査、市町ヒアリング調査、フィジビリティ調査により実施し、各調査結果を踏まえて、彦根市、東近江市の2ルートを候補に選定した。令和7年度以降に候補ルートにおいて実証運行を目指し、レベル4の実現に向けて技術的な検証を実施していきたい。

【レベル4を妨げる項目の洗い出しと対処策の検討】

　レベル4を妨げる項目の洗い出しと対処策について、彦根市、東近江市の2ルートを対象に、フィジビリティ調査、リスクアセスメントにより実施した。

　洗い出した課題項目および対処策の検討について、令和7年度以降に目指している実証運行の結果を踏まえながら、路車・信号協調の導入、車両の技術向上、交通参加者への啓発等を検討し、レベル4の実現を目指す。

■社会受容性面

【県民を対象としたWebアンケート調査】

　自動運転バスへの期待、利用意向、負担意向の把握を、県民を対象としたWebアンケート調査により実施した。

　利用意向、期待については、6割程度の回答者が「利用したい」「どちらかと言うと利用したい」、また、地域への自動運転の普及について、7割以上の回答者が「賛成」「どちらかというと賛成」と回答し、期待、利用意向ともに高いことが伺え、実証運行の際は一定以上の利用が見込まれると考えられる。

※経営面における検証と一部重複

【滋賀県レベル４モビリティ・地域コミッティの実施】

　　自治体、運行事業者、関係機関等からなる滋賀県レベル4モビリティ・地域コミッティの設置により連携体制を構築し、本事業の概要、検討状況等を共有し、今後の実証を見据えて助言、意見等をいただいた。